© The Tiffen Company, 2000
KODAK Gray Scale
Kodak
LICENSED PRODUCT

713
1869

古今
怪談
雲州白壞
乙

但州
中屋甚左衛門
湯嶋

1869
5

怪談中の内袋巻之五

目録

怪物と成て怪しをなす古川の領身附り女房の飛来る事

小牛田と成て角てとを牧村の方言附り猿よくくるまの事

弓矢を以て狐を射る七峰の庄狗附り殺生して非罰を蒙る事

勇力を以て剛し羽さ香山の弱強附り殺生勇をりんぐるる事

白太とりて養まとした太郎の娘聟
附七人の子の中も女よし人許まで記事
思ふ通といふく如何助く河内の商人
附北飯と造むむの事
白髪といふく嚴山を駆く生の歌
附月新といぬとする事
小児といふく北西に蒙恵の愚人
附いもせるを地をもつて事
鹿皮といふく身と養ふ屋士の孝子
附いぶるとをたけ地とする事
二郎といふく仲人に嫁肖の誓河
附山伏志のびりのを地ごに事

懐抱せのの袋奏こと五
女の首野附狐ありく事
下流水吉河の場に出る狐男屋とする
世にさてし名物して地ちるに一人
の養妻城地ゆ楽しいる者の作ちに屋さを
かもくとさひつくこさくひ拾ひ生る事
くくしの河の附そのの事へ地りもきまのすぐ
に歌ふふふくたこ歌の月山のた狐ぬ
さやけしかの世楽しとふ狐へ吉川分十八
九丁のたけりして一もぢの色言歌ふく秋
風身ふしこいと地ごさか歌あしこちく
ふこいづる附しもちるのよむしの方ちもて
地ばたるる事三四人屋にうのこさものこび
さこりねあやしや何るぬぎとる場ぬとぢ池

[illegible]まる一人の侍もけうれはりひとせんと[illegible]
[illegible]をつきこめんとてうかの首うり[illegible]
[illegible]てゆきみぐるまいろ志[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ひて場[illegible]の顔[illegible]
[illegible]
[illegible]

京よりあるへとくをうをよ牧といふとをうを牧とい
ふ村あり元和のまへ牧のさとうをうをにて
あるあひだ九よりいりうとを芸れ俳屋へ深物
とうをうやうゆきてうのをうをぞめのをうをんの
いとぐあるをうを小櫛よ入あるがいてぐをてうをう
ぷうをうをむをうのごとぷをうをもをうをのを
の弦ぐをれいてふ隆て風をうをげうれぐ田をし
者よををとふをさぷをうをさんもいをひをうをうや記
をくをうをひをそんかをふをちよをを白ハをぐを
て給をうを小櫛ありていりをふいうをうをぷのをめをを
りをうをあるをうをびをうをををやをうをぐなけど
をけべをたをうををのをぐをうをち蛾いをうをう
あるハ面ぐがかてをををねをうふ（ぐぐしとハ牧間小ぐをいをうをう）新雪
てぷふくを給をうんをとをんぐゆくぷくをもあをよ

つと縛りそこなひあんのごとく振むきあとをとらへやれ
とくれしつとうとうとうぞ振とうくと振いうげぬ
おどろきたる神もなく面乃山をしてゆくえを
もとめ給ひおやそれもうまりにむもあり
とりつきあげどもそもや服乃玉さとりとり
まこひとぞしてくてくりものていをたまこさ
たぞしてはあるよむものくなる

殺生して神罰あるまき

あるさうらい和尚へて厠へ参る蛇乃うへ大
なる法師あらふあるべきやうこそあるれと
まさげふりたのを肩さ紀一刀さり参る
二つふさにこのもものうきそてみるにさてうを
らんとそうに分あるもふてゆうえどやうく
まこげとはらふ蛇あるくうるよ紙あるうるあく

ちとそうぞふあるうる妻みくおど絵をこりそ
も何まそ肩一うふ神二ケ和をあるし
のつとうるうざなどたれる絵天してたるふ紀
分を第うるうるう治をれどもかるたつるう
はうるぬ家へハをうとうかせうあるハあき
とも男なるうるく法をあるに後家も大坂
へ宰居せうはるへまさうへのうるうしを
をへ人こそ天照大神乃樹めるふ地をて殺
生せうるうるう今の壮士おそれさうべき
や分地へ求うる知りへ物をるれ
賜をとるうるう山ぐうとうるうる蛇乃汀殺
生樹る蛇乃場へあるうるべうるぐ更殺あるうるべきま事
へやそのうこ士器乃法物のうこさ賜物をとぐ
めう神とはるあへはやものうこ乃うるめへあひて

姫君乃到をせーとや
　　所作うんぐん　数生ともべきまま
きのこときめくくんぐん　ありぞその象ときて　禄ときら
うみとこあめくくうて　官位めでたく　加号あり
てぼくよる　物とあ　むていそうハこうす　同
あ中めどうえるう　ぱ人　面ものあるて　或
歌　蓮糸乃くくん　もりごくき　山の　蓮寺　山乃　禁よ
むくよぼくくう　夢　履くうあ　川主　法四人　ゆう
ぐみくくい　山くく　何ぐふ　ふと　求ふる　大きくのうぼう　猿
　　極くあるくき　乃くよみ　ぐくくぼ　ぐくて　人かて　待
くくとハみくんぐ　ぐくう　ぐやくくも　ゆ　紀大きゆ　物
ゆりごのくよ　ぼゆる　ぐくくて　四人のうゆ　ゆまう
くうぐて　あくあり　ていつや　うぼくく　ものて　を
くくくんや　号　姫ぐくく　ものくふ　四人と

たちとゆるしまこめてさうふいごさばおそろ
いつそうなりしけんたいきかひ淵平こ
ゑの勇士これどもさうまちうべきを樹も
ゐ　さうじゆうしはへうきもそていまろもとこ
いつようの捨もなくくもたもの山ゐとなる書自ゐ
神のちめしくくもあんう

七人のまの中もまんゆうたまはす
耳なれうちうるよあうん姫とうつ家よ白
たあり姫よ小僕屋うびようの白犬とうびく
掃除せよはしもとめいはをのわが書そなどたりれ
うれじたもをとふうくうきうくて姫長りて
うくうぢきはたぶちもべきさん一ぶうろふ
てうたぶきぶしべきさ淡合などもれぢばたはて
主人のうとまちそうくうのんとくくも縁

乃事いつ紙ぢうくのぢくかうれぢうは
ちうちう持て姫乃嫁もべきやうなし強
よおきかりとりふむきめを思ひ入ろう神を
さ海ぢくぞ乃ぢくしおやうのくちひ相人を
しびドとあれうれぢば犬ひいりなう
ちうにもも又挑んやしまうのぢるれはちく
あひうちなくくもうんぢう書ぞなどいひりを
畜生ぢうぢうやうあびちうう
はせぐちうのまぢ家見こちうおやや清
うぢ　さてはちくくかうと姫ようれはあんて
なげくうちもなし我ま仰ちうちくちやうよこ
うと遠ぢうれうろ山よあをはたうだりうと
ちふつうくうちうべき国果ちあれざぢふ
ちひぢもいうあよあくあんあくうにかれ

さむ[illegible]ろも[illegible]もあるべきこと[illegible]もきのどく
いたこと[illegible]でこの[illegible]の者と
竪[illegible]の神のこと[illegible]
末をたぐためしるもかうなるべきこと[illegible]
らでこそ[illegible]猩[illegible]
くれでぞんなハ市ふ[illegible]
をそれりをぐせのやく[illegible]
あること紀ふ[illegible]
物もみくよそのす[illegible]
既情よんこと[illegible]
おこと[illegible]
それも文のこと[illegible]
ゆのくむること[illegible]
一ふこと紫乃[illegible]

かきみぐそろう紀ふ[illegible]
るさけの測もあさう[illegible]
もびるくもひそれ[illegible]
いげこそていろる人[illegible]
おりつぐよぐ[illegible]
とつふさそハさこと[illegible]
をんをいあるようぐ[illegible]
而よ物あ[illegible]よ例乃た[illegible]
しころさんとおりい[illegible]
よもこぐそろもも[illegible]
ろろぐこハおろよ[illegible]
ふ安ものいるこなげ[illegible]
ろひ物ふぐこいふさ[illegible]
かりそあよあもち[illegible]

ゑあもりれいそやとぞぶとりふうろさてそ
さやうよいろ形四くもかりのころ一汗身の
いくぐりはりはそんいとそくくそといふさて
もくやむうもものぶ我いまぐ完まり書も
ゑ一さそうはいぐさそひ接んとつふどんもも
たりるれ分なれだろれちろよ海せてなぐく
そひはりぐ一の矣もかぐそち接けむ子我七
人までまふをたり品ぶあり表ろうくはこ
ぐそひ白太ろくかろひゑきまふ我穀
しはりと作ろん乃ろぬうちとまーいちろく
ぐはりぐんるはちりくちまれうろうつゑよ
やまぐとこ抜ぐりとうり有ふそ女ふ八四
ふさねとうれりぶりり繁とくべこあさ
かなぐうをそれねいもせうまこそはれこう

ぜの川よ瀬ぐこてぐ我こうてそこた八初め
てあふおあこりと世紙もいひるうハせり
まさくむそうはろひてじーよをそぞね
紙書るれぐたりうせ一をれしまざいくあ
らまほまさる紀えぐ我も形ついろり
なるこの杖風までもんおりふうぐ人八純五
ぐくまざりそくれぞとそほふそふ
とくのぐく新ぞそそはあくぐそふう
ハかしぼくぐさるり世乃ちりなるをんふ
そうせてーぐねぐーなるそうふんうふまれよ
ちまぐーくゑくくりくれ命あるも形ふるあ
乃御ぐるんどあちまるひこちそびいくく
卯月の一日よ和よあそ乃紙麻まろふぐ
くる燭乃ぐいくりんる

飢をぬすむいぬ乃事

寛永七八年の比江戸四角町やもとゝ町ゝ
ゝゝの庄へ乃ゝゝもめん商人ありそのとゝめを
もあゝゝおぼゝゝゝもゝびくゝゝぐりくれど
ゝゝ両屋の下女ゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

いとい・ゑ・ゑ更婦ときこえていでゐあるきハーの
ふる人の戸あるをていくぐ物乃めんにまんとふ
さくぐ・ゑ・ゑくゑつるをて乃ゑ乃ゑへとふあるさんの
いつよ海ゑくせくはけくみるにちぐ・ゑまなし
ゑ・ゑをあくれくて警朔いめ・ゑ・ゑへくび・ゑ・ゑ
とのれ・ゑ・ゑ重乃ぶんくてふくへの戸あけく
・ゑ・ゑくとせーまよあくんどぐよくのくまくで
くちくへくくくくくくやいくふとくくくくくくたた
ゑ・ゑ方ゑくしてくくりぬくてくくをぬくくくをを下
女ゑくとくくぐしーもくくれくくくゑれくの・ゑ・ゑ商人の
門ゑくを二階ゑくてくくくくくく

忠乃うつゝ　さる猿　飛乃うさぎ　うま馬　寿
しく　者王の軌　乃白ちり　百大人のうな
西亜乃紬　もねぐら　人のうちびつふ　ちりあ
名代　鶴よ　光られ　ありしの　乃ものさ　ひよあ
あり　猪　猪が　忠も　門亜が　後ふ　ちりて　おり　さ　勇
士も　源氏　ーかろ　ぶ　妻氏　素　枝よ　京公乃　家氏　風
とうま人　出　くさ　者れ　威　とう　入て　ハ者れ　くさ
らよ　ありと　りの　く　害　ある人　と　病　りい　まくも
家　く　よりて　あつく　ふさる人　墨乃　ごと　くあ　ぶと
者ちて　その　屋　を　ちぶ　ぞ　家　ぶ　の　乃り
ぶ代　おま人　遠　法　ぶ　ま　ぶ　ひ　ふ　門　ぞ　ぶ　ぶ　あ
され　ゆ人

月報をかとゝろ

あり人　さぶれ　のち　れま　ふさ　とば　ひの　乃代

ゆく月は　法　乃う　ゝ　ゝ　ま　れ　笑　生　寝
ちつて　ぼう　ぬ　さ　と　ぬ　玉　の　う　で　を　眞　山　も　く
やと　ぶり　ま　ふ　ぶ　め　い　く　ぶ　ち　さ　ぶ　代　南　回
て　ぶく　芦　も　ま　ぐ　ぐ　ふ　ろ　泥　乃　あ　や　め　も　ぶ　ぬ
ち　ぶ　ち　ぶ　よ　塘　と　ぶ　ま　く　白　犬　あ　り　碑　と　り　門　く
と人　で　ひ　く　ま　の　ふ　ぐ　ち　づ　ふ　ゆ　け　で　犬　も　ぶ　よ
ぶ　ま　れ　で　い　ぬ　も　で　ま　わ　り　く　く　遅　て　ち　ひ
ぶ　ち　ナ　笑　町　ゆ　く　よ　二　あ　り　白　ろ　ま　ま　も　れ
ぶ　れ　ち　り　ぶ　乃　堤　ま　ま　ま　は　ろ　ひ　ぶ　頼　ゆ　く　こ　ち　を　撲
な　り　よ　犬　乃　ぶ　び　な　ぶ　ま　い　ふ　と　え　り　こ　の　う　え
ぶ　り　て　ぶ　ま　で　い　ぬ　あ　り　ふ　ま　ご　の　あ　り　ひ　と　る
よ　伺　乃　部　の　ま　ま　る　あ　ま　ま　く　ま　り　ー　月　乃
新　う　ろ　ひ　ま　り　ま　し　と　ち　ひ　と　ま　ち　八　月　と　ぶ　て
も　月　と　ぶ　て　ん　ま　ぶ　ち　ま　ぶ　ち　ま　ん　と　せ　ー

うどもに犬とはうつくしみとざうなり。一念乃執心
とところいるものなりて。ナ男所まちうちうく
ほをやうつくかんとおひうどもまうりれど
とうこれうどれやこの事者が約をつて堅ろを
穿ち主覇が跡やうまて深淵とうこうしひ虎
とうくいる矢も岩ろよりとうこうしやまと奇
乃ろめうこうこう唯識乃ろ論ろこう三性と立て
徧計依他乃海ろひも成実乃ぬうなろふいこ
つうて八まうろんとおりふうもいうでゆうろん事
と濁ろうしけうるすもうれ仏ろうの金口
仏徒ろ真徒をうへ求来をうむろ乃親ろ乃
ろうさうのあつうさうさまうさひべるうもや

いもうろうとうけ物とおりひまま
やうふ煩ろうで言煩へゆくへあうれひうさ

戸あけて海ろふ出ろうよえうまねりの
あうちあうろうぐけうものとうひうやいけうをふ
ぶうあうてううさけうしけものあうくれどうう
めうちうろいうまうしたうふうあうろうあうう
てまうさけうものううたうふうあう事べうう
ふ乃ううち行のう乃根ろこの乃ごういう
けうまめううさ物とおりひゆうをうてうようう
まあううふうくう行まうそうて事ろうさて史
新ろ乃ろに疱瘡うくふあうけうろあうけうう
乃女ろ乃中乃ふうやうおうくう神ろ紀家ろ
事もせうあうう内乃下女出ろくうるう乃姫
ろうくうろうたうろうゆくうるうくうひうろ
いひうさうろうあうもれうちまうでうこうやうまで

みぐ〜鄭重にもてなされてさてさてよりそれ
まくうち揃ひて漆匂ふるゆ〜決を行ひて
いとくこそ侍れ

みぐりを握りてみ度

さる人みな方柔うくあ元前へとつくひしよ
なれ世はうろ肉大多方やうて猛
うろふ屋うく蒙古と東人つい
まぐ侍ぐれど侍ものおとうふナ冥百
さ行へ行るうんえもれぐさきものゆく杉
ト月さ〜多にみまぐ元ところ天ぐうう
よ横へもあるで程うう人きまうくトハ平し
うろへ月さ物ひうくとうやくあぶ鎖の
ぐ〜ゆくふきれどやいうもゆびえ侍
たへてきまへぐ〜行あもあれうてきて

きやとおりひ木履ぬぐ接ぐ〜びうの乃ちてえく
とうぐちうくとうつとうふこの者紙うて
きて見てあくとものふこふ又人ありぐて面ち
うり行者ぐとものへぐ所もうりんよ
きむぬぐうきくさふ水つきふぐうこの白面よ門は
水つきぐよりりべきやうはぐ常楽る接よ
浮門へまうりはうのぐふとおりひこきてうて紙人
まぐぐものわぐきこ〜ひる儀をせるうふおりひう
うへよたきうぬい笠ぐうきうう。この笠乃ぬ
まりぐぬまて月さに新乃行のうのうく百
ちうきふぐちうくとひうれうぐうくもあうれ
なうとうん知やうう乃ぐうめよ廉度をうまうう人
ぐ〜あうせぐ〜い山市よ者ちを学むあやうきも
おりひやうまてぐ行うう

山づ[illegible]ぶ[illegible]ものをおぐ[illegible]
て目をれうりごと更男一口のやこの和よあの
ちゃ海ゆうひゆくよ一乃さとありて住なり和
まの下面ゆまゆくに面あまてく物さびしう驚
やづまて雪ふぶんのまば焼とばそあちゆく
月岸住乃ゆりひとりぐ[illegible]乃小さと羽化山平
巣ゆひ鶯亀乃言協薙麟門ゆとあぶむ[illegible]
ゆゆ和へ和ゆもゆまゆんよ必ひとゆみゆゆゆゆ
必ゆゆよけゆく来ゆこゆゆゆゆゆゆゆ
つゆひてんぶやうへあづうふゆあゆゆゆ
竹ゆびて来ゆゆゆくおゆ焼くおゆよば
女ゆう来ゆすゆゆゆゆうふちゆゆゆゆゆ
ゆんしゆうんをいゆよゆゆゆゆ

紙ぶくろ小袋とり出し、よそかひういたるふ衛
りのまりふぜいうつもりてきたりうつくしへ
しさしあり男乃まぐらゆしさぶ
なくへうれぞ安うちうろこびていうるれどと
そくそまうまんぞをこそなどかこうろ
るうにおのこもうぐうへて月ハ清よはうぐ
よハなけきどゆきともんよ海うたぐさうハぽんも
まううもぽくむしよあまるむ乃者のゆうを
らさ紙ハぞひうぐうくうりくうべよをどうう
あうんやさまでううをゆそるどこうるもさ
もうぐふうれ中とうんこうり山ぶ見てさて
ちうと出合どうろよさぶまれよあ思び者
なめれ紙をどせそでゆうたべしとぞうて行う
よいうぐくとハうるべさなれバぞうりの紙し打

あう粉いうるうんやまちまうりをのがきね
ぐうさうさうぞうこうこも髪もとけかぐけ。
海ぶもはうもう抗のうこうちなうびつ西
うれぐぞうへもまぜう山ぶーもぞううと
ぎうてたうぐふぬううちうこせあぞう
まぞうふとのねせんと燃くうもう揉うさく
ぎうとぞれうぎうへの抗乃うぐでんぐやうう
どうやをおうんぐぎうとうもうひうりうけ
まうぐぞうりうもうふうもたまーねもあうぐこ
そぞあうてふうめうぎうぐふなうて近うりを
つもぞうれも鬼とうぎまやとぞうくの者をして
でんぐやう乃抜ふうをうしぐうつもぐ
ううるまぐぞあとうんうぐうげ行うぎて山伏う
のこせ屋自ぐもうぞうのうさ富みを

あらしと云物とりぴう潔乃代のたゝれ
男塔乃第二層よりまじりて雷うち
うゝれく乱ぜりこの夜乃あゞさて山伏
りあゝうれも云たゞひゝかゝるとき精金
ゝゝべとせあさまゝくも絡うたゞ一首も
后宮ゝゝ神よりの侍者をとゝれがみてゝり
れの家よ新枕せもゝもそのひゝひなくてゝ色
ぬゝゝゝやゝぶよるゝけなゝいもせの中
乃ゝゝゝ思もゝゝをねぢきりあゝゝゝ
びもゝ情ふゝゝりかゝゝもなく廉も
雪も閉ゝをゝて鶯の巣屋乃ひゝゝの
ゝちゝやゝゝ神代ゝゝもゝゝみゝゝて
川乃ゝゝひゝゝく暁雪乃いゝふゝ猛あゝ
もゝけ乃ゝゝのそゝゝれどゝりゝふゝ乃ゝ

あさまゝゝのゝ
ゝよりてもゝゝゝゝとゝゝゝ
ゝゝゝ接人ゝと
怪談ものの貸卷之終

四町通淺小路下ル
菊屋長兵衛板

明和五年子正月吉日